

年頭のいあい



和歌山県知事
宮崎 泉

あけましておめでとうございます。
昨年6月に知事に就任いたしました。以来、現場に出向くことを大切にし、企業や農林水産業を訪ねたり、また、タウンミーティングを開催するなど県民の皆さまの声に耳を傾けてきました。今後もこの姿勢は変わらず県政を進めてまいります。

昨年開催された大阪・関西万博では、岸本前知事の「県民総参加」の思いを引き継ぎ、多くの方々に参加いただきました。その結果、関西パビリオンの和歌山ゾーンには目標を大きく上回る約47万人の方が来場され、和歌山の魅力を国内そして世界に発信することができました。

また、8月には「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」が世界農業遺産に認定されました。2015年の「みなべ・田辺の梅システム」に続いて、今後も産地と一体となってブランド力の向上と関係人口の増加につなげてまいります。

今年は、新しい総合計画の初年となります。この計画で実現したい将来像は「人口減少や気候変動に適応した、持続可能で心豊かな和歌山」と「個人が尊重され、あらゆる分野で個性輝く和歌山」です。これらの実現に向けて、施策を着実に進めてまいります。

また、本年11月には田辺市で第49回全国育樹祭を開催します。2011年に開催した第62回全国植樹祭で、天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下がお手入れされます。森を守り育てることの大切さを全国に発信し、和歌山らしさ溢れる大会となるよう準備を進めます。

新しい年が県民の皆さまにとって輝かしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



和歌山県議会議長
岩田 弘彦

あけましておめでとうございます。

県民の皆さまには、健やかに令和8年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より、和歌山県議会に温かい御理解と御協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

昨年は、「大阪・関西万博」が開催され、2,900万人を超える国内外からの来場者で大変な賑わいとなりました。万博開催効果もあり県内主要観光地においてもインバウンドをはじめとする観光需要の高まりがありました。今後、万博でのさまざまな経験や知見が波及し、県内の活性化につながることを期待いたします。

本県では次世代を担う若者にとって住みやすく魅力ある地域とするため、若者が活躍できる場を増やすことが重要です。子育て世代の県内での定住や、都市と地域をつなぐ関係人口の拡大・深化を図る多様な地域づくりも大切です。先端技術やAI等の導入により既存産業を進化させながら守り育てるとともに、さらに企業誘致を促進し新たな産業を創出してまいります。

また、災害に備え県民の生命と財産を守ることも重要です。南海トラフ地震に備え「半島防災」という視点から県土の強靱化を進め、防災・減災のためのインフラ整備に取り組みます。

今年は、県が策定した「新総合計画」の初年度となります。ふるさと和歌山が一層躍動でき、県民の皆さまがいいきと活躍できるよう精一杯尽力してまいります。

結びに、県民の皆さまの御多幸を祈念し、併せて、新しい年が希望に満ちた良い年となりますようお祈り申し上げ、年頭の御挨拶といたします。